

入院中の先輩のクラブ手に



高校野球岩手大会

5

10日午前10時。試合が始まる前、花北青雲ナインは円陣を組んで叫んだ。「陽さんに勝ちを届けよう」

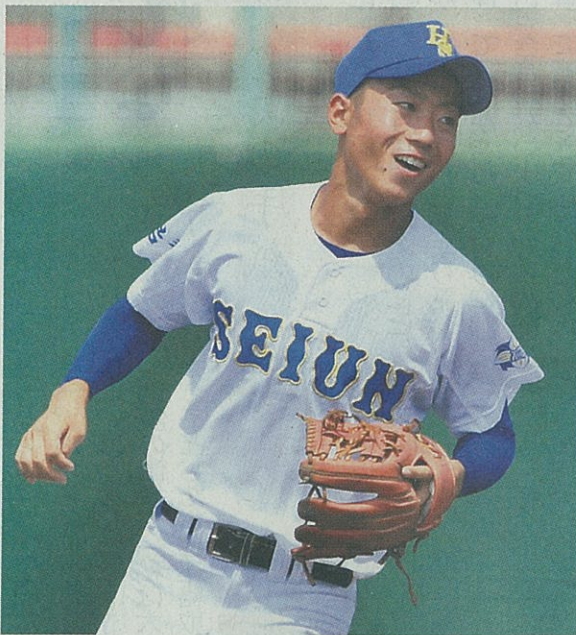
本当なら輪の中心にいるはずだった佐藤陽君(3年)は、病院のベッドの上。この試合の後、午後2時から手術を受ける。

ベンチに飾った佐藤君のユニホームと帽子。佐藤君がチームに贈った「俺のために優勝しろ」の一言。チームで唯一、2年生で先発入りした中村海斗遊撃手は、佐藤君のクラブを手にとり、仲間と強く勝利を誓った。

中村君は大迫中野球部の

花北青雲・中村海斗君

勝利重ね、帰る日待つ



佐藤陽君のクラブをはめ、先輩の思いを胸に全力でプレーする中村海斗君。10日、森山球場

時、1年先輩だった佐藤君 公式戦で最初から最後まで誰よりも一生懸命プレー 一緒に野球ができた。夢の姿に魅せられた。「まよだった。一緒に野球がやりたい」と、花北青雲に進んだ。だがこの頃から、中学校3年時に椎間板ヘルニアの手術を受けた佐藤君の腰が2イニングほどだったが同じグラウンドに立てた。今春は、高校に入って初めて

日に入院。選手登録を取り消され、主将は斎藤駿助左翼手(3年)に代わった。佐藤君と共に汗を流した練習の成果が実を結び、盛岡誠桜に10-1でコールド勝ち。父の会社員和弘さん(52)によると、手術前に勝利を知った佐藤君は「春以降の練習強化でチームの雰囲気を変えられた。最低限の仕事はできた」と素直に1勝を喜んだ。

中村君も帰りのバスから佐藤君に無料通話アプリで「勝ちました」と報告。一言「おつかれさん」と返事がきた。「次は陽さんが手術の試合ですね」「俺もコールドで勝つ」手術に臨む1時間前、いつもより明るいやりとりだった。

手術は無事終わり、早ければ1週間ほどで退院できる見通し。「陽さんが帰ってくるまで1勝を重ね、目の前で勝ちたい」。中村君の負けられない夏が続く。

